
嘘吐きな魔女

鎌堂成久

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

嘘吐きな魔女

【NZコード】

N8071A

【作者名】

鎌堂成久

【あらすじ】

そこは魔術室 教授の魔女と助教授の魔術師がいた。魔女が完成させたのは美術価値の高い額だった。だが、それを覗くと

：

「はーい、これで出来上がり」

彼女が作った、狂氣の作品。彼女の嘘の傑作。偽りモノ。
いらない文句まで出てくるが、美術的価値は相当なものだった。
「魔術師に魔術が使えないのはおかしいことでしょう？」

誰も作つたことはないのに、彼女が作ったその傑作は、単なる嘘の塊だった。

「君は嘘吐きだ！」

彼はそうやって批判した。その中に潜む闇が見えてしまったから。
「何故？ あたしの作ったこれは誰にだって未来が見える額縁。それはそれは綺麗に絵になつて自分が見えるんだから誰だつて欲しがるに決まってるわ」

「魔術をそいやつて使うな！」

彼は腹を立てて声を荒らげる。

「ただいま帰りました。教授、助教授」

助手が帰ってきた。

助手は魔術が使えない。教授は彼女、助教授は彼のことだ。
暗い室内でただ明るく光るその額に助手は興味を示した。

「あれ？ 何も描いてないんですか？」

「正面から覗いてござらん」

「見ちゃいけない！」

助教授の言葉も聞かずに助手は額の中を覗いた。

「！」

悲鳴も上げられないまま、助手は倒れた。

未来の自分を見てしまつてから。

「なにつ！ 死んだのか？」

彼は助手を覗き込む。

「死にやしないわよ」

額の本当の効果を彼女は知っていた。

「あんたも見てみたらいいじゃない」

唆されて彼はその額を覗き込み、そして息絶えた。

「その額は人の未来を暗く映すもの……。あたしは悪魔だからあんたとの未来は暗いところでしか見えないと思ったのに……」

二人も殺してしまったことに後悔はない。

刑で処罰されないように、この世から二人の存在したこと自体を消しきえ場すればいい。

「×××と×××の存在を消し給え！」

呪文を叫んで一息ついた。

「あんたはなんであたしから消えてくれないの……」

因縁の中だった、助教授のことを彼女は想つた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8071a/>

嘘吐きな魔女

2011年10月3日11時17分発行